



鳥海山

第17号

題字 顧問 佐藤 吉寛
発行 本荘地区保護司会
「鳥海山」編集委員会

東由利から 西目区保護司 潟保 卓雄



極端な世界

会長 佐藤 道幸

「異常気象」という表現が通常になりつつあります。聞いた事がない気象用語が増えています。

冬生まれの私には殊に夏の暑さが身に伝えます。何せ重ね着する職業ですから薄物を着ても枚数に変わりがあります。

私が中学生の頃は気温が三十度を超える日は珍しく、道路のアスファルトが柔らかくなり靴の跡を付けて遊んでいました。でもエアコンが無くて暑さでした。今や体温を超える事もあり「酷暑日」なる言葉も生まれました。

一方冬は子供の背丈を超える積雪で、今のように除雪機もなく踏み固まった道路を歩く人の足だけ見えた店主の店主が話していた程です。「踏み依」なるものを今の人は知らないと思います。

近年地球規模の気候変動が続いています。夏の台風迷走が注目された事がありました。南で発生した台風が右カーブで日本に近付き北東に抜けていくのが普通でしたが、行ったり来たりして何時までも停滞し長期間被害を与えたり、高気圧や低気圧が中々移動しない時があります。

これは偏西風の蛇行によるものらしいですが「北極振動」がその原因といわれています。北極振動とは北極圏の寒気が時折凸凹に南下する現象でその縁を流れる偏西風が影響を受けるのだそうです。

この冬は北海道や青森更に北米方面に寒気が大きく張り出し寒波と大雪をもたらしましたが、反面太平洋では暖気が北

に押し上げられ温かです寒気がくびれた状態との事。

北極振動の原因は未だはっきりとは解らない様ですが海水温の上昇も関係しているといわれています。

元より大気の下層の対流圏では寒暖差により空気は対流し、また気圧差により高気圧から低気圧に向かって風が生じます。これは高低差のエネルギーが不安定を解消し均衡を保つための動きで、海洋においても同様の対流の動きがあります。気温や気圧の高低差が大きいほど激しい気象を引き起こします。実に地球の自然界における壮大な営みです。

私達人間も似たように心の不安定を解消するために自衛的に様々な行動を起こします。感情をコントロールし安定させる方法が判らず、自分の考えている事をうまく伝えられず悶々と悩んだ時期を誰もが経験しています。

人生に付き物の喜怒哀楽の場面で極端に偏らない「中道」の立場で物事をしっかり見つめる心構えが必要ではないでしょうか。

時々地球には生命体としての意思があるのではないかと思う時があります。太古の昔から人類は危機を覚える自然現象に対し「人力の及ばざる所みな仏神に祈る」しか為す術がなく、唯々鎮まつてくれと願ひ祈った事でしょう。今でもその願ひは届くのでしょうか。

この地球に「間借り」している身として、極端は避けて欲しい所です。

部会だより

総務部

令和七年度事業を振り返って



部長 佐々木正人

令和七年度も、秋田保護観察所をはじめ関係機関並びに会員皆様のご指導ご協力により、計画された事業を無事に遂行することが出来ました事に深く感謝申し上げます。

総務部からは、保護司確保へのご協力をお願いと主な事業報告次年度のお知らせをいたします。

◎保護司の適任者確保について

近年、全国的に保護司数は減少傾向にあり、保護司の適任者確保が喫緊の課題となっております。当地区会においても、現在の定数六十三名に対して令和八年一月末現在五十六名と七名の定員割れとなっております。

今後の年齢基準退任予定者は、令和八年(六名) 令和九年(五名) 令和十年(一名) 令和十一年(八名) 令和十二年(四名) 五年間で二十四名の方が退任されます。

こうした現状を踏まえ、お互いに情報を共有し、地区を越えて保護司



総務部

の確保にご協力をお願い致します。

◎特例再任制度の活用

保護司は再任時に七十五歳以下でなければ再任されませんが、意欲があれば七十六歳以上であっても一期二年に限り特例的に再任できます。特例再任保護司は、七十八歳になる前日までは通常の保護活動が出来ます。

◎更生保護サポートセンター

令和七年度は延べ三百十九日開所し、保護司会の事務を始め月一回の企画調整会議を開催し保護司会の運営について話し合いを行いました。また、対象者の面接場所としての活用や更生保護女性会等との情報交換の場として活用されました。

◎社会を明るくする運動

令和八年度公開ケース研究会は岩城地区で開催予定
「令和七年度公開ケース研究会」

は由利本荘市・にかほ市の「赤い羽根共同募金公募助成事業」と県保連の「社会を明るくする運動」モデル地区の指定を受け、由利地区で開催され、大きな成果を上げることが出来ました。令和八年度は岩城地区を会場に開催される予定ですので関係各位のご協力をお願い致します。

◎保護司専用ホームページ(はあと)の活用

令和三年八月から、保護司専用ホームページ(はあと)の運用が始まっております。内容的には、保護観察報告書の作成・保護司同士や観察官との情報交換・定例研修会の動画視聴や各種情報の提供等の活用が出来ますので是非登録をお願い致します。詳しくは、サポートセンター事務局へ問合せ下さい。

研修部

保護司の立ち位置について



部長 齋藤光春

平成二十九年に、保護司を拝命し、現在に至るまで、三名の対象者と関わりを持って参りました。

いずれの方も面談の際は、穏やかな雰囲気の中で面接ができる方達で保護観察期間を無事に終えること

ができました。保護観察が終了後も、家族とともに我が家に訪ねてきてくれた方もいらつしやり、それぞれの方が、再度過ちを犯すことなく社会の規律規範を守りながら、今後の人生を送ることを祈るばかりです。そのような中で、帰住後の家族や地域住民との関わりがどの様になるのかということが懸念されます。

帰住先のほとんどが罪を犯す前から居住しているところであり、保護観察対象者が犯した罪に関して、地域住民は少なからず情報を得ている方もいると思われます。また、対象者が障害を持っていたり、生活が厳しい経済状況にある場合もあります。帰住先の自治会の皆さんや社会福祉協議会の担当者等との情報を共有し、対象者の更生支援を推し進めていく必要を強く感じられます。



研修部

しかし、守秘義務等の制約もあり、情報の共有も難しい部分もあることは否めないことでもあります。また、保護観察が終了した後、対象者との関わりについても十分な配慮が必要とは考えます。

対象者の更生支援に対して、社会資源としての相談援助機関が有りますので、保護司として判断を誤ることなく、主任観察官と連携をとりながら、効果的な保護観察についての研修を積んでいかなければならないことを深く感じる昨今です。

これからも、対象者が再犯を犯すことなくしつかりとした人生を歩んでいただけることを祈念しています。

犯罪予防活動部

〇〇ファーストと三方良し



部長 山田 真竜

今年、例年より早いぶん早い雪解けでした。いつもであればお彼岸の頃まで、雪が残っていることも珍しくなくて、まだ近くの田で羽休めをしている白鳥の群れを目にするのも多い時期なのですが、今年はどうの昔に飛び去ってしまい影も形もありません。桜も

例年よりは一週間ほど早いとのことで、春が待ち遠しいこの頃です。そんな中、連日報道されているのが、アメリカとイスラエルによるイラン空爆のニュース。テレビ画面の中の戦火のもとで、一体何人の罪のない女性や子供、老人等の民間人が亡くなっているのか、本当に胸が痛みます。それにしてもどこかの大統領さんの言い始めた「〇〇ファースト」というのはいったい何なのでしょう。か。「国益」という名分のもと自国優先の政策を強引に押し進めれば、他の国の国益と衝突するのは当たり前話です。かの伊藤忠商事の初代創業者は伊藤忠兵衛という人で、先祖は近江商人。「売り手良し、買い手良し、世間良し」という「三方良し」が先祖から受け継いだ経営方針だったそうです。これは「商売において売り手と買い手が満足するのは当然のこと、社会に貢献できてこそよい商売といえる」という考え方で、自らの利益を追求することばかりをよしとせず、取引相手の利益も考えながら、社会全体の幸せを願うことが、長期的には巡り巡って自らの繁栄に繋がって行くというもの。「〇〇ファースト」を叫び、自らの身勝手な強者の論理ばかりを押し通し、他者を力づくで威圧し顧みることのない、殺伐としたここ最近の世界情勢を観ると、この現代にこそ必要な考え方はないかと思えます。

協力組織部

まず一步、とにかく一步



副部長 田口 吉美

協力組織部の活動、それは保護司と連携関係にある組織に協力すること。組織とは①更生保護女性会、②BBS会、③協力雇用主会です。この中で現に協力出来ているのは③の雇用主会総会への出席のみ。その出席者も部員の半数以下が現状です。前々からの課題として、まずは限られた部員だけでなく多数参加による部内活性化が言われてきました。その効果として例えば考えられる活動に①更生保護女性会の総会や研修会への参加・協力、所属区での活動の応援、②現在休眠中のBBS会の再始動への援助や、一度は立ち上がったものの続かなかった県立大学内でのBBSサークル復活への働きかけ、③実際に保護観察担当中の保護司が対象者の就労支援が必要となった時にどのような手順を踏んだらいいのか、保護観察官、保護司と協力雇用主を結び役目を果たすようなシステムの構築などが上げられると思います。「言うは易く行うは難し」、加えて部会の開催を言いなが

らも実行できていないのが現状です。まずは部会の開催から一歩踏み出したと思います。部会員の皆様のご協力をぜひお願い申し上げます。次に本荘地区更生保護事業協力雇用主会（以下、協力雇用主会）の現状をお伝えしますと会員数は現在三十三社（内県機構登録三社）と、発足当初四十四社から大幅に減少、総会等への出席も固定化・減少化と年々厳しい状況になっております。そのため役員改選も固定かつ欠員ありの状況が続く、いかに総会等行事へより多くの会員の参加が得られるかが課題です。令和六年度より総会を保護司会の公開ケース研究会に合わせ開催致しました。一人でも多くと開催地での会員や協力組織部会員の参加を願うことですが、効果はゼロでないにしても・・・でした。ご参加頂いた会員様、部会員様には改めて感謝申し上げます。何か研修になる映画上映会をとも常々考えながら時が過ぎていくのが現状です。この春には「日本財団職親プロジェクト東北秋田支部」が発足致します。職親企業になるには協力雇用主となる必要があるとのこと。新たな展開につながればありがたいことです。そのためにも発足十年以上上った雇用主会との関係の上で、発足に関わった者としては、今一度、部会員のみならずの協力が必要な時期に来ているのではないかと考えます。

学校担当部

西鉄バスジャック事件



部長 猪股 知幸

令和七年九月二十四日に保護司中央研修会に参加の機会を得ました。表彰式の後、講演会があり、山口由美子氏の講演を聞きました。氏は、二〇〇〇年五月三日午後一時半頃に起きた、佐賀発福岡天神行き西鉄バスが、十七歳少年に乗っ取られた事件の被害者の一人です。この事件では一名が亡くなり、四名が負傷しました。その負傷者の一人が山口氏で、亡くなった人が山口氏の親友、塚本達子さんであったそうです。犯人は自分の言うことを聞いていないと、ためらいなく切り付けたそうです。山口氏はおびだしい自分の血を見ながら、死ぬのだろうと思ったそうです。それでも、止血のため腕を心臓より高く保っていたそうです。犯人は、中学時代にいじめに遭い、高校入学後すぐに不登校からひきこもりになり、事件を起こしたのだそうです。山口氏は、自分の娘が引きこもりであったこともあり(今は元気に生活しているとのこと)、どういふ心情で事件に



学校訪問

至ったか知りたいこともあり、面会を申し込んだそうです。面会して話を聞くと、中学校三年生の高校受験一週間前に、二階階段から飛び降りると命令され飛び降り骨折したそうです。結果、第一志望の高校には入学できず、第二志望の高校に入学したそうですが、入学間もなく引きこもりになり、五月の連休に事件を起こしたそうです。当初、学校の生徒を傷つけようと計画したようですが、休中で実行できなかったようです。それで、バスジャックに至ったのと。さらに面会を重ねて、犯行に至る細かい心情の変化を聞いたようですが、結局、家庭にも学校にも犯人の居場所が無かったのが犯行の引き金になったようだと言口氏は話していました。犯人に会いに行くなど我々の心情からすれば、ほとんどあり得ないことだと思えます。保護施設の中とはいえ、再び襲われはしないか恐怖心が先に立ちます。犯人との関わり方の心構えを深く考えさせられました。

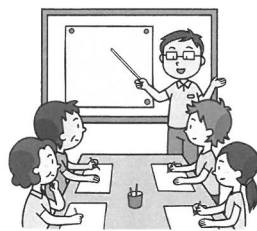
指導力強化研修

「令和七年度保護司指導力強化研修」に参加して



矢島区 真坂 伸子

令和七年十月十六日、秋田市老人福祉センターにて「令和七年度保護司指導力強化研修」が開催されました。この研修が、保護観察等の処遇を行う上で、委嘱後の経験年数に応じて実施する数少ない重要な研修であるということで、身の引き締まる思いで参加させていただきました。研修内容は、「生活環境の調整の実際」「恩赦制度」「保護観察の実際」「犯罪被害者等施策」でした。私が、保護司を拝命して間もなく最初に担当したのが生活環境調整で、引受人との面接を始めとし、引受人の引受意思や、当事者釈放後の帰住予定地の生活の見込み等についての確認でした。引受人と当事者の意思の疎通がうまく進まないこともありましたが、何よりもその事件の背景に複雑な成育歴や家庭環境が垣間見え、その実情に驚き、自分ができるだろうかという不安が大きかったのですが、矢島地域の先



研修会風景 (イメージ)

輩と二人体制で担当することとなり、大変心強く思いました。先輩の確かな情報管理の下、一つ一つ丁寧に対応していく姿に少しずつ信頼関係が築かれていくのがわかりました。相手の性格や特性に合わせた対応を心掛けたり、相手の考えを肯定形で話をしたり、保護司として面接する中で、改めて人との関わり方、相手への傾聴姿勢の大切さを学びました。今回の研修では、あの時の実務経験があったことも重なり、生活環境調整の実際、面接の技法等については、グループ討議の中でも、皆様の様々なケース対応や事例検討の考え方、提案などを聴くことができて、多くの吸収がありました。また、この研修を通して一番に感じたのは、お互いの人生観から生じる考え方の違いを尊重することの大切さです。我々素人が確信をもってできることは何か、そのステップの幅、高さはとても深いものであるということ。更に自己研鑽しながら、知識、スキルアップを高めていきたいと思った時間でした。

本荘保護区管内市町村における地域援助協議会

地域援助協議会における取り組み



秋田保護観察所
統括監察官
五十嵐正樹

息の長い支援を実践すべく、保護観察所では更生保護団体の皆様と連携し、刑務所等を出所した人や保護観察を受けていた人などが、地域社会で生きづらさを抱え支援を必要としているときに、必要な支援を円滑かつ継続的に受けられるよう、多様な分野の機関・団体の皆様とのネットワーク構築に取り組んでおります。

本協議会の趣旨は、互いに顔の見える関係づくりを目指すとともに、更生保護について理解を深めていただき、地域援助を円滑かつ効率的に実施することを目的としており本年度はじめての取組であります。去る令和八年一月十五日に本荘保護区におきましては、由利本荘警察署生活安全課、由利本荘、にかほ市の市民生活課、保護司会、更生保護女性会の代表者に御参集いただき、地域援助に対する御支援、御協力を求めるだけで



はなく、各市町村が策定する再犯防止推進計画の策定状況に関する情報交換のほか、①犯罪・非行に関する研修や講演会における企画の支援や職員派遣、②刑務所を出所した人などの支援事例検討会への参加、③犯罪予防や再犯防止に関する広報及び情報発信等の広報支援、④関係機関・団体の皆様が支援している方への助言や提案等といった個別ケースへの対応も行うことができる旨をお知らせさせて頂きました。次年度以降、医療や福祉関係者にも同席していただき、定期的と同協議会を開催して参りますので更なる関係機関・団体の皆様の御理解、御協力をよろしくお願いいたします。

保護司セミナー

令和七年十月十四日、由利本荘市西目公民館シーガルにおいて、令和七年度保護司セミナーが開催されました。秋田地区、大館地区、潟上湖東地区保護司会に続き開催され今年で四年目となります。

保護司の高齢化、また秋田県内では今後十年で約半数の保護司が退任となり、成り手不足は喫緊の課題となっております。関係団体（ライオンズクラブ、ロータリークラブ、少年保護育成委員会等）の方々にご案内を差し上げ少しでも保護司や保護司活動を理解、保護司確保の一助となればと開催されたものです。パワーポイントの資料による保護司の説明等、また本荘地区保護司会の佐藤道幸会長と石井久美子保護司の体験談、



ユーチューブ視聴、秋田県の更生保護のホームページの説明をしました。

終わりに出席者の方々から一言ずつ感想を述べてもらいました。終了後、本荘地区更生保護サポーターセンターの見学をしてもらいました。



管外研修・東北地方更生保護大会

管外研修に参加して



本荘区
伊藤 泰博

十一月二十五日（火）、午前八時由利本荘市役所集合後、青森市

へ向け出発しました。青森県に入り、大鰐温泉を過ぎるころから、国道の左右にはリンゴ畑が続くようになり、どこからか三橋美智也の「リンゴ村から」の曲が流れてきそうな、晩秋の津軽の風景の中、初日の研修先「更生保護施設プラザあすなろ」へ向かいました。午後一時三十分から施設長笹森康之氏（保護司）より施設内の概

要等をご説明いただきました。当該施設は市街地に改築計画をしたことから、住民の理解を得ることができず、計画から二十年間の事業休止期間を経て、平成十二年九月三十日、現在地に於いて事業を再開し、以来二十五年経過しているようです。また、事業再開当初から運営状況の透明性確保と説明責任を確保するため、町内会長や大学教授等の学識経験者で構成する「青森県更生保護会館施設運営協議会」を定期的に開催しているとのこと。

施設では仮釈放者、満期釈放者、刑の執行猶予者、起訴猶予者を受け入れており、現在十五名の定員に対し八名となっている。このように新規入所者の減少傾向を受け、収容率も下降線をたどり、



経営的にも苦境に立たされているが、更生保護施設は無くしてはならないと熱く語られていました。

研修終了後、青森文化観光交流施設ねぶたの家「ワ・ラッセ」を訪れ大型ねぶたの鑑賞、ねぶた囃子の生演奏でハネト体験をしました。その後、今夜の宿泊先浅虫温泉「さくら観光ホテル」で懇親を深めました。

二日目は午前、青森県立美術館で芸術鑑賞（金魚作家深堀隆介展「水面のゆらぎ」等）後、リンク



私は、令和七年十一月三十日をもって年齢基準による任期満了となり保護司を退任致しました。平成十一年十二月一日付で保護司を拝命以来二十六年間、保護観察所を始め更生保護関係機関、地区保護司会の皆様等多くの方々のご指導、ご支援、ご協力を頂き大過なくその任を終える事が出来、深く感謝と御礼を申し上げます。

顧みますと、在任中の前半は、対象者の環境調整・保護観察事件を、延べ七件担当しました。その処遇に苦慮の連続でありました。が、見事に更生し自ら和やかに声



【退任】
東由利区
小松 義嗣

お世話になりました

をかけてくれる元対象者に、保護司冥利を感じたところでもありません。後半は、地区保護司会の事務局を八年間担当させて頂くなど組織活動が中心となり、サポートセンターの移転、由利本荘市再犯防止推進計画の策定、保護司定数充足率の向上等への係わり、新型コロナウイルス発生により活動形態の変更を余儀なくされ面食らった事などが印象深く残っております。

私も傘寿に近づきましたが、これまでの保護司会での皆様とのご縁を大切に、社会を明るくするため、今できることに微力ながら尽くして行きたいと思っておりますので、皆様には変わらぬご交誼をお願いするものであります。

終わりに、皆様のご健勝と当会のご発展をご祈念申し上げ退任の挨拶と致します。

お世話になりました。

退任・新任保護司のメッセージ

ステーションホテル青森で開催された、「三十二回東北地区更生保護大会」に参加しました。

大会では、前法務省保護局長、押切久遠氏より「良い知らせと悪い知らせ」と題しての講演を拝聴しました。（押切氏は平成十一年青森保護観察所調査連絡課長として着任、「更生保護施設プラザあ

すなろ」の事業再開支援に手腕を振るった。）講演終了後、午後二時会場を後にし帰路につきました。今回は十二名と少人数でしたが、今回の研修は多数の皆さんに参加いただきたいと思います。二日間ともこの時期にしては天候に恵まれたことに感謝し報告とさせていただきます。

退任にあたって



【退任】
本荘区
猪股 則雄

私は西暦二〇〇五年六月に、当時羽深良雄先生から、お声を掛けて頂いて拝命いたしました。保護司の活動については全くの無知でした。新任保護司の研修を確か男鹿市で受講した記憶があります。

仕事を抱えての研修会は欠席することも多々ありましたが、在任期間二十年余りの間多くの諸先輩より仲間として親しく接していただきました。本当に満足した人生の一ページと感謝しております。退任する最後のひと月迄対象者と向き合って環境調整を終結できましたことも感慨ひとしおです。刑期を満了し、社会人としての再出発を見守っていかうと思っております。

これ迄のご指導、ご鞭撻に感謝を申し上げて当保護司会のご発展とご盛会を祈念致しまして退任のご挨拶と致します。



【退任】
東由利区
小松 幸円
在任期間
H24.7~R7.10

秋田県で開催された「ねんりんピック二〇一七」の剣道交流大会に出場され、優勝に貢献されました。また、保護司会活動の傍ら子どもたちの剣道の指導にも当たられました。

よろしく願います



【新任】
東由利区
高橋 鈴子

令和七年十二月一日付で保護司の任命を受けました高橋鈴子と申します。

一昨年、本荘更生保護女性会研修会に参加させていただいたことがきっかけで、更生保護女性会、保護司の方々との出会いがありました。昨年七月、矯正展に向かうバスの中で大先輩より「保護司やってみない？」とお誘いを受け、知識もなく不安がりましたが、社会貢献できるのであればと思ひ引き受けさせていただきました。

私はこれまで地域の方々に支えていただき三人の子供を育て、そして無事に定年退職を迎えること

ができました。これまで暖かく見守ってくださいました地域の皆様から少しでも恩返しできるよう、自分で出来ることを取り組んで行きたいと思っております。諸先輩の皆様、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

新任保護司として



【新任】
東由利区
阿部 重和

令和七年十二月一日付けで保護司を拝命いたしました阿部重和と申します。

保護司のお話をいただいた時には務まるのだろうかという不安はありましたが、社会や地域貢献に協力したいという思いはありましたのでお引き受けしました。

とは言え、保護司についての知識はほとんどなく不安でいっぱいでした。そこに初任者研修ですからますます不安が募るばかりでしたが、先輩保護司の方の経験談などを聞くにつれ大変参考になると同時に、自分なりに何かお役に立てるのではないかとあらためて思ったところであります。

これから、保護司として更生保護活動はもちろん社会や地域のお役に立てるよう微力ながら頑張りますので、先輩保護司の

皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

弱点を活かして



【新任】
東由利区
五十嵐恒憲

この度、保護司を拝命いたしました五十嵐恒憲と申します。まずもって日頃より更生保護活動にご尽力なさっている関係各位に、心より感謝と敬意を表します。

普段は東由利老方にある曹洞宗泉秀寺の住職をしております。保護司の責務の重さと思うと、お引き受けすることに躊躇もあります。が、今は地域の一員として少しでもお役に立てればと考えております。

私は聴覚に障害があり、健聴な方に比べ、「聞く」ことに多大な労力を要します。他のことを考えながら聞いたり、他のことをやりながら聞いたりすることはできません。日常生活では困ることも多いのですが、全力で傾聴するしかないという点は長所にもなり得ます。

聞くのが苦手という弱点をよい方向に活かせるように、諸先輩方のご指導を仰ぎ、自らの資質の向上に努め、誠実に職務を果たしていく所存です。ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



昨年十一月の県更生保護大会にて表彰賜り、十二月には本荘地区会にてもお祝いしていただきまして、誠にありがとうございます。

保護司を拝命して二十年ですが、昭和六十一年にBBSに入会し、更生保護事業に関わらせて頂いてからは四十年にもなるうとしています。その間本荘地区BBS会長や県BBS連盟事務局長の時は、本荘地区保護司会や観察所から大変お世話になった思い出が沢山あります。まずはそのときの皆様に御礼申し上げます。

そして十年ほど前までの面談は、対象者宅への往訪と保護司やBBS会員宅への来訪が必須の時代でした。この点に付しましては、私の家族がよく理解してくれて、更生保護活動を円満に行うことが出来ましたことに、何よりの感謝をしています。

年功による表彰ではありますが、この重みを感じつつ、関係の皆様を重ねて御礼申し上げます。

法務大臣表彰を頂き



本荘区 佐藤 道昭

法務大臣表彰

第七十五回 社会を明るくする運動

公開ケース研究会 in 由利



由利区 荘司 和夫

社会を明るくする運動は犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラを公ケース研究会は、今年で七十五回を迎えました。毎年、同運動の強調月間の七月に由利本荘市と、にかほ市が交代で旧市町持ち回り開催してきており、令和七年度は、由利地域の善隣館を会場に七月二十三日に開催されました。

最初に由利地域の保護司で昨今、毎日のように報道されている投資詐欺やロマンス詐欺、警察官になりすました詐欺などの犯罪予防や、被害を受ける心理などの研究テーマはどうかと話し合いをしました。由利地域総合支所の担当者とも二回程打ち合わせをして、内容の確認や講演をどなたにお願いするか等を話し合いました。

人口減少や少子高齢化などで参加者が集まるか大変心配しましたが、当日は準備した椅子が足りなくなり、追加するほどの参加者で盛会裏に終えることができました。

内容は秋田大学教育文化学部教授、北島正人先生に犯罪者の心理特性などについて講演していただきました。毎日のように報道される特殊詐欺、その金額の大きさに驚かされます。

さらに最近気になるのが強盗事件です。この強盗事件は、都会の話かと思ってお

りましたが、最近では田舎の高齢者を狙った事件もめずらしくなりました。高齢者宅に数人で侵入して手足を拘束し金を奪い取ってゆく、やがては秋田でも起きるのではないかと危惧されます。人口減少により地域の人間関係が希薄になってきている今、地域コミュニティを大事にして行かなくてはならないものと思っております。

最後に、一市七町が合併して由利本荘市となって二十年が過ぎました。人口減少に歯止めがかかりません。旧由利町もご他聞に漏れず、合併時の人口が現在半分になっております。由利本荘市では行政改革の一環として、将来の人口減少を見据えて令和八年度、組織の改編を実施し、総合支所の事務事業を本庁に集約して総合支所の人員を削減する計画のようです。このようなことから旧市町持ち回りで行われてきた公開ケース研究会も見直しの時期に来ているのではないのでしょうか。



編集後記

毎日の除雪・排雪作業、本当にお疲れさまです。

令和8年(西暦2026年)の1月~2月にかけては、強い冬型が続き日本海側の北陸から北日本の山沿いを中心に大雪になりました。青森県・山形県・新潟県では、豪雪のため災害救助法が適用になりました。秋田県においても県北(大館・能代・鹿角・北秋田・小坂・上小阿仁・藤里)を中心に大雪となり、1月21日に、災害救助法が適用されました。大雪による、人的被害・家屋損傷が多数発生しており、憂慮される事態となっています。

これからは、融雪時期に入りますが、雪崩や落雪等の事故のないように細心の注意をしていくことが必要です。

春はもうすぐです。元気を出して頑張りましょう。(佐藤順一)

編集スタッフ

- 佐藤順一 (東由利) 佐藤道幸 (本荘) 村山正顕 (鳥海) 瀧保卓雄 (西目)
- 長谷山良 (象瀧) 佐々木正人 (矢島) 岩崎通子 (本荘)

第59回 秋田県更生保護大会

令和8年11月13日(金)

あきた芸術劇場ミルハス(中ホール)にて開催されます

令和8年度 社会を明るくする運動

7月は社会を明るくする運動の強調月間です。第76回公開ケース研究会は岩城区で開催されます。